善正寺だより

〒:512-0902
三重県四日市市
小杉町1014
浄土真宗
本願寺派
善正寺
☎:059-331-1670
fax:059-332-0733

掲示板法話

教えとは鏡なり　愚かさを知らされる鏡

眼の病気を患っている人が書かれた本を戴きました。タイトルは「ばあばあのおめめは仏さま」というご本です。右眼と左眼の焦点が一致しなくなってものが二重に見える難病だそうです。著者の海野公子という方は入院治療中に読んだ本の中で「仏さまの眼は半眼です」と知り、眼を伏せてうつむき加減に見ると正常に見えるので、自分の眼も仏さまと同じ半眼なのだと思い至ったそうです。

退院した日、３歳の孫が「ばあばあのおめめ、大丈夫？」と声をかけてくれたので、「ばあばあのおめめは仏さま」というと、孫が喜んで「ばあばあのおめめは仏さま」と何度も繰り返すのだそうです。その孫の言葉がそのまま著書のタイトルになりました。御本は「聞法の歩み：み教えと法友に出遇えて」と言う第一部と、「病床つれづれ：法友に支えられて」という２部構成の、老病死に向き合った信の歩みが綴られて、念仏者の人生が生き生きと描かれています。お聞きの皆様もぜひ一度お読み下されば、とお勧めしたい仏教書です。

実は私も角膜変性という眼の病気を抱えて治療中ですが、明らかに右眼は半眼のような状況で密かにコンプレックスの種になっています。ある日夕方の鐘つきに来た子供が、私の顔をしげしげと眺めて、「おじさん、眼見えとるの？」と言いました。その時、むかっと来て、「見えとるわい、お前の腹の中までみえとるぞ」と大声で怒鳴りました。後で思うと怒鳴るとは年甲斐もなくお恥ずかしいことよ、と後悔したのですが、海野さんのように「おじさんの眼は仏さまの眼、君の心の中まで見えるかもしれないよ」と穏やかに言えばよかった、と自分の短気な性格を恥じました。

帰敬式の時にお唱えする三帰依文、「自ら仏に帰依し奉る」「自ら法に帰依し奉る」「自ら僧に帰依し奉る」の３つ目、「僧に帰依する」という誓いは、み教えに生きる仲間からも教えられ学ぶ道だと気づかされます。共に聴聞させて頂くお仲間からも感化され、気づかされ、導かれる世界が広がっていることを再発見させて頂きました。教えとは鏡なり、と言われます。智慧の鏡はわが愚かさを見せてくれる鏡、愚かさを知らされ、導かれゆく鏡だと学ばせて頂きました。

（参照：海野公子著『ばあばあのおめめは仏さま：老病死に向き合った信のあゆみ』自照社出版）

☆行事ご案内

◇１０月の門信徒会例会

１０月１５日（日）夜７時半

① 報恩講を迎えるにあたって。
② 親鸞聖人のご和讃を味わう。

◇「第2回ファミリーコンサート」 10月1日(日)午後1時

稲葉梨恵様、長谷川恵理子様、星合智美様、歌とピアノの名演奏。寺で楽しむ音楽会。無料！終了後茶話会もあり。家族お揃いで！

◇『第７回百五銀行善正寺門徒展』阿倉川支店、１０月１カ月間、１１月報恩講中にも本堂展示。９月末まで作品募集中。

◇初参式の赤ちゃん幼児募集！来年4月21日(土)午後1時善正寺
三全仏婦主催、千円。地域の皆で子供の健やかな成長を祝福

善正寺ホームページ「三重　善正寺」で検索．1年分の寺報閲覧。
毎日更新ブログ「**住職と坊守のつれづれ日記**」好評。開設丸9年2か月で24万8千訪問、一日平均80人～90人、悩み相談、大歓迎！即返信

◇絵手紙教室　10月10日(火)午前10時２５回目川崎光子先生
◇キッズサンガ１０月７日（土）４時鐘撞き夕方５時、年中無休
◇一縁会テレホン法話：０５９・３５４・１４５４お電話下さい
３分間の法話が流れます。週替わりで５か寺の僧侶・坊守が担当。

◇新納骨堂：後継者の無い方、お墓でお困りの方ご相談下さい
◇法事場所でお困りの方；本堂使用可。寺にご相談下さい。

※１１月２日午後と夜、３日午前『報恩講』（藤大慶先生）

故川崎孝一氏・アサガオの「念仏三昧」
（平成２３年）等、三重組コーラス（２２年）の思い出写真

アサガオのつるで『念仏三昧』

四日市市小杉町の川崎孝一さん（80）は、アサガオのつるで文字を表現し、近所の評判になっています。

文字は「念仏三昧」。自宅の塀（幅8メートル、高さ1・5メートル）にパイプを組み、つるをはわせました。

昨年までは、しだれ状にして生育させるなどをしていました。ことしは生育不良で、一部しか芽が出ず、何かできないかと考えました。

偶仰心的な要素もあり、『念仏～』との文字にしてみようと思いつきました。

川崎さんは「また来年は供の案を考えてみたい」と話しています。

坊守スケッチ　終活よりも宗活

「シュウカツ」と聞くと、あなたは何連想されますか？大学生ならば就職活動。高齢者ならば身辺整理を意味する終活。果たして自分が生きてきた証を全て片づけることが、残された者にとって果たして幸せでしょうか？

50年連れ添った妻に先立たれた80歳男性の投稿が心に残りました。「妻が逝って1年半、最後の入院まで書き続けた5年連用日記を今も時々読み返す。死期が迫った夜、共に名月眺めて読んだ歌。この日のページには感謝の言葉が綴られた。どんな時も動揺せず、一日一日を大切に生きた妻。『また会おう』と言うと「そんなに早く来なくていいわ」と返答。この日記はかけがいのない私の宝物。私が逝く時には一緒に棺に入れてもっていく。必ずまた会おう」

他人には不要なモノでも、残された夫にはかけがいのない宝物です。

ところで大乗9月号に、仏教壮年会新理事長さんの挨拶で、宗教活動を意味する『宗活』という一言が気にいりました。

「47歳の時仏壇店に転職。それまでは仏教とは無縁の生活。次第に仏教の学びを深めた。お寺には居場所があり、往く先を同じくする朋友が、同じ目的で活動する。浄土真宗の生活信条を旨として『宗活』の実践を提唱したい！」宗教活動を『宗活』と短くネーミングするとは、いかにも今風で現代人の心にフィットします。

「老後は身辺整理の『終活』よりも、残された人生を如何に生き抜くかを学ぶ宗教活動、つまり『宗活』に時間とエネルギー費やそう！」これをお寺のキャッチコピーにしたら如何でしょうか？

私の知り合いに『宗活トリオ』と呼ばれる女性3人組がいます。彼女達は興味ある法座には、どんなに遠くても誘いあって参詣します。仏法で結ばれた絆は固く、全国各地から磁石が引き合うように法友の輪が広がります。まるで宗活のお手本のような生き方を、私も見習いたいと思います。

カンパありがとう！

澤田様、山中様、大塚様、他よりお志、切手等頂戴。有難うございました。

敬弔

★服部恵子様（楠・9月2日ご往生、75歳）合掌

★川崎孝一様（9月6日ご往生、88歳）合掌

寄稿

・児一人家族総出のプールかな　四日市市　釋妙水

・幼子の笑顔飛び交う夏座敷
・鳴く虫の声も移ろい寺の庭　四日市市　釋清風

☆若院夫婦の『育自な毎日』その34

今年の夏休みはプール三昧でした。子供時代以降プールとは無縁だった私達夫婦ですが、祖父母までもが50年ぶりに水着を購入し、我が家にスイミング旋風が巻き起こりました。

そもそも家族中がプール三昧になった原因は、水に顔をつけるのが苦手な長男(5)のおかげ。長男を水泳の得意な知り合いの女性（76）に鍛えてもらうことになりました。彼女には日頃から境内の草取りや庫裡のお掃除でお世話になっています。彼女はシニア水泳大会で優勝したスーパーウーマンで、子供の指導経験もあるベテランさん。週に一回、市内の室内プールでコーチをお願いし、付添の大人も水着姿で参加することになりました。

厳しい指導は更衣室の使い方に始まり、プールへの挨拶、入水の仕方など、私達親も勉強になることばかり。長男へも、まずは水への恐怖心を無くす指導から始まりました。長女もお気に入りの水着を着けて、兄ちゃんの真似をしてバタ足や浮き輪でプカプカ。私は長女とプカプカ遊びした後に入る、プールの傍にあるお風呂が楽しみです。まるで温泉気分（笑）。

長男は夏休み中に浮き身が出来るようになり、潜ってプール底に手がつけるまでなりました。すごい進歩です。しかし「プールさん、お願いします！」というプールへの挨拶が言えず、先生から注意されてポロポロと涙を流しました。家族や幼稚園の先生以外に叱ってもらうことは無いので良い経験でした。流した涙の数だけ強く成れるという事が、やがて長男にも気付く日が来ることでしょう。（若坊守）

お知らせ＆募集

◇「第二回ファミリーコンサート」十月一日（日）午後一時・善正寺にて
稲葉梨恵様、長谷川恵理子様、星合智美様の歌とピアノ、入場無料、終了後茶話会、ご家族揃ってご参加下さい。

◇第7回百五銀行門徒展、十月一カ月間百五銀行阿倉川支店ロビーで開催。
皆様の作品を広く募集します。十一月二、三日の報恩講でも本堂に展示。どしどしご応募下さい。

◇初参式の赤ちゃんと幼児募集！来年4月21日（土）1時、三全仏婦主催。
会費千円、地域の皆さんと子供の健やかな成長をお祝いしましょう

善正寺・今年残りの主な行事

※11月2日午後と夜・3日午前『報恩講』（藤大慶先生・京都府）
※11月23日午前『秋勧進』
※12月2日（土）午前10時半『お内仏報恩講』庫裏。昼食有。

☆　編集子より　☆

「善正寺だより」第286号をお届けします。◇北朝鮮の核ミサイル開発が止まらない。勝ち誇ったような報道ぶりに鼻白む。対する大国の思惑も不協和音。◇俄評論家ぶっても諸行無常の世、後生の一大事を心にかけて。合掌。

『秋深き隣は何をする人ぞ』という俳句は、芭蕉が亡くなる二週間前に詠んだ俳句です。病床で死期が迫る中、芭蕉の寂寥感と隣人を思いやる優しさが伝わります。これをパロディ風に現代版に置き換えると『秋浅し隣は核で脅すなり』。北朝鮮の核ミサイル実験がしばしば行われて、世界中を震撼させています。果たしてどんな結末を迎えるのかな？今の幸せが一瞬に消え去ることもあります。暢気に俳句で遊んでいる場合ではありません。しかし私達ができることは高が知れています。長い歴史を振り返れば、全て人間の欲望と権力闘争故の繰り返し。名もない庶民は、生き残る為にただひたすら耐え忍ぶばかりでした。だからこそ心の支えに「宗教」が必要なのです。旅でも行き先が決まって、初めて行き方が決まります。私達の人生も同様です。お浄土という往き先が決まってこそ、安心して生きられるのです。その為には、歴史に学ぶのが一番。亡きご先祖の汗と涙の歴史から「仏様になられた方の願い」を聞きましょう。追悼法要はその意味でも重要な法要です。また十月一日(日)午後一時は『第二回ファミリーコンサート』。前回同様プロの歌とピアノで秋のひとときを子供さんと一緒にお楽しみ下さい。入場は無料ですので皆さんお誘い合わせてお越し下さい。また十月一ヶ月間は百五銀行阿倉川支店で『第七回善正寺門徒展』。皆様の力作は報恩講(11/2・3)でも本堂に展示します。是非一度お立ち寄り下さいませ。平和な毎日が続きますように！合掌

平成二十九年十月　　善正寺坊守　拝